

**秘**

技協課長

北東アジア課長

7

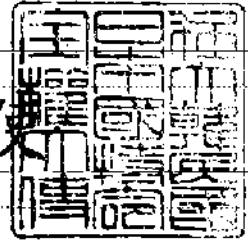
政第3027号

昭和43年7月30日

外務大臣殿

在大韓民國

金山大使



韓国人原爆犠牲者慰霊祭<sup>祭</sup>について

本件に関し、7月29日「韓国人原爆

犠牲者慰霊祭執行委員会（第1回慰霊

祭執行委員長 金八峰）名付で本使

宛招待状（別添1）および趣旨文（別

添2）を郵送越し、<sup>8月6日</sup>本使の同慰霊

祭<sup>に本使の</sup>出席を依頼して来るが、<sup>事</sup>同6日の

原爆記念日<sup>に</sup>について、人権報（別添3）



より別添3の通り、韓国原爆被害者協会  
 が、ソウル市の天道教本部会館または新東  
 会館で慰霊祭を挙行政した後、同協会  
 常務金周根が週教分子をつれて、本館を  
 襲撃し、本使と談判し、談判結果如何で  
 手榴弾およびダ付マイトを投じて本使以下  
 館員とともに自決お討死を推進中である旨の  
 情報があったので、<sup>7月23日</sup>館員を以て治安局に  
 赴かせ、<sup>先</sup>(1)前述の慰霊祭については、  
 ①主催者および招待者 ②韓国政府  
 の後援の有無等について、また(2)後の  
 大情報については、①容疑の有無、②  
 関係者の動向等について調査方依頼せ  
 るとともに、万一の場合のため、6日前後の  
 数日間、本使および本館を(警戒) (警護)

本記にハレ打合せをさせたので報告する。

なお、23日、金島均治家局外事課長は、  
鏡意双債にお前回答しているのを申し添之  
る。

別添 <sup>お知</sup> ~~り~~ の 為 館 役 課 文 を  
添付する。

別紙添付

招待狀

時下炎暑之節에 尊體萬安하옵심을 仰祝하나이다

就而 오는 八月六日과 全九日은 第三次 世界大戰 末期 우리 同胞로서 學兵 徵用工 勞務者等으로 日本國 各地에 強制 動員되어 있던中 廣島市와 長崎市에 投 下된 原爆의 洗禮를 받은 날입니다

이날 爆死 또는 犧牲된 五萬餘 同胞의 靈魂은 여태 昇天을 못한채 오늘에 이르렀으니 우리들은 그 가엾고 섬섬한 마음 禁할바 없었습니다

올해 三三周忌를 마지하여 民族의 矜持로써 今般有志諸賢의 協贊으로 따뜻한 同胞愛에서 左記에 依하여 鎮魂祭 및 第一回 慰靈祭를 奉行하오니 바쁘신 중이라도 掃萬庶臨하여 주시압기 삼가 바랍니다

記

冊 一九六八年 八月六日 上午 拾時

곳 曹溪寺

連而 前夜인 八月五日 夕時부터 鎮魂祭 撤及 護經會가 奉行됩니다

一九六八年 七月 日

韓國人原爆犧牲者鎮魂吳第一回慰靈祭執行委員會長 金

八

峰



責下

## 趣 旨 文

오는 8月6日과 9日은 第2次世界大戰末期 日本國 廣島市와 長崎市에 聯合軍이 投下한 原子爆彈으로 人類 史上 처음 보는 慘狀의 洗禮를 받은 날입니다

그當時 우리同胞로서 學兵 徵用工 或은 勞務者等으로 強制動員되어 人間以下の 苦役に 시달리다가 이날의 不幸속에 爆死 또는 犧牲된者 無慮五萬餘名에 達했습니다

그後 祖國은 解放되고 大韓民國이 樹立된지 20餘 年이 지나는 동안 우리는 倭政의 惡夢을 깨끗이 씻고 이제 南北統一과 近代化課業을 成就하기에 一致團結하여 祖國과 民族은 앞으로의 發展과 繁榮을 期約하고 있습니다

이러한 중에도 우리는 第2次世界大戰이 남기고간 커다란 傷處가 아직도 아무런 收拾策과 對策이 없어 지금도 原爆의 犧牲者들은 그들만의 不幸으로서 잊어 버린채 지내왔습니다

또한 負傷者들은 가진 家産을 治療費와 바꿔 完治를 바라다 끝내는 病死한者 不知其數요

或은 原子病 後遺症으로 勞動力을 잃은 채 病苦와 飢渴에 시달림을 받아 삶의 즐거움조차 잊은지 오래인



不具 目不見의 그늘진 人間像을 우리들 同胞는 여태까지  
모른채 지내온것이 아쉽니까 이러한 不幸한 同胞에게  
오늘이라도 따뜻한 陽地를 마련하여 주셔야 하  
겠습니다

于先 우리는 이날을 마지할때마다 우리들의 兄弟姊  
妹들의 魂魄이 二十餘年 동안 異域萬里蒼空에서 輪廻  
轉生の 길을 찾지 못하고 헤매이고 있음을 가슴 아  
프게 生覺하여 왔읍니다

韓民族의 矜持와 同胞愛로써 民族의 앞날을 위하여  
이 가엾은 五萬餘 兄弟의 魂魄을 그들이 夢寐에도 잊  
지 못하던 祖國땅에 모셔다 昇天의 길로 引導하여  
怨靈을 慰勞하고자 하는 各界 輿論이 沸騰하여 有志  
諸賢의 協贊으로 祭典을 奉行하고자 하는 바입니다

1968年 7月 日

韓國人原爆犠牲者鎮魂吳第1回慰靈祭執行委員會

別添 3. 大使館

(K情報)

10頁あり

事務 政務

林

4. 原爆被害者の乱動計画

広島、長崎原爆被害者の救護団体である、韓国原爆被害者救護協会は、東3月8日(原爆投下23周年記念日)を迎えて5万人の韓国人被害者(同協会推定)の慰霊祭をソウル市内の天道教本部会館または新聞会館で挙行する計画である。同協会常務金在根(広島での被害者であり、極悪分子の指導者)は同慰霊祭の終了後、原爆被害者の主力で日本大使館と密接して大使と談判しその結果如何により手留弾及び

計画と秘密に推進中であり、同時に米国外務省と訪問して米大使に救護要求を出した方針である。

同協会は67年3月に創設されその間、韓国政府(保健部、外務部、ソウル市庁)、日本大使館、米大使館、米八軍司令官及び一線部隊と対象に救護運動を展開して来たが日本大使館と陰謀では全然石炭

過激分子約30名が主動になり、67年末と68年3月期に日本大使館襲撃と密議したことがあり、68年2月末日本大使館に伝達した15万ウォンとその他の寄付金10万ウォン及び同協会理事長養度煥の投資した130万ウォンと協会の運営の爲に使いつくして同協会は原爆被害者達の恨み、的になり自爆と自傷(これら二つの状態である)で悲理事長も過激分子の乱動計画という可感知しるかも知れない居り、全国の被害者達も集合した場合には自暴自棄の

心理を強く作用して意外の行動に出る可能性が  
多し上記組織的行動隊を編成する計画は改  
樂觀生まる。

同協会は現在慰霊祭の経費として300万円  
乃至1000万円と計上し主として日本商社と計案  
に寄付金と集める計画であるが日本商社の協  
会に協力する場合には襲撃の目標に日本商社  
も含まれると考慮して居り日本大使館が150万円の援助  
と申し出るに過ぎるものに対して極度に興奮しない

同協会が事業計画は韓国側より最少限1000坪  
以上の土地ともうし日本側からこの土地に病院  
被害者アパート、小規模工場及び住居を建設し  
米朝側が食糧、医療、図書及びその他補給品  
を定期的に提供してもらうことであるが現在ま  
全然進展ある。



# 別添1 復讐文

和 衛 紀

~~和 衛 紀~~ 第38期月日と9日付 才之次 有界 大歌 東朝

和の同胞の 拳銃 微同工 有籍者以上 日本国 若使 大 強

別添復讐文 2.11.13 中下 履島 守上 表衛 守下 授下 以下 厚機

の 護 紀 在 才 之 次 日 之 別 冊

二 日 爆 犯 取 下 籍 性 大 有 才 之 次 有 籍 同 胞 の 護 紀 付

二 日 爆 犯 取 下 籍 性 大 有 才 之 次 有 籍 同 胞 の 護 紀 付  
二 日 爆 犯 取 下 籍 性 大 有 才 之 次 有 籍 同 胞 の 護 紀 付

二 日 爆 犯 取 下 籍 性 大 有 才 之 次 有 籍 同 胞 の 護 紀 付

第 23 期 志 在 此 之 護 紀 の 移 籍 以 上 有 籍 有 籍 同 胞 の

御 才 之 次 有 籍 同 胞 愛 以 上 有 籍 有 籍 同 胞 の 護 紀 付

祭 杯に 不同部員を執行したV杯にて 多忙中ではあり

すV杯の 歸席 <sup>下</sup> とい杯の 離心 申上り候。

記

跡 1968年 8月 6日 午前 10時

申

即折 書込奉

追加. 前夜である8月5日夕刻から 総選挙 概夜 概夜 概夜

が 執行 され候。

1968年 7月

職同人 藤 操 性 有 鑑 鑑 和 氏

不同部員 執行 委員長 金 八 峰

# 別添 2、仮交文

## 趣旨文

来り 8月6日と9月8日 2回 在野大敵 末期 日本国 廣島  
市と長崎市に 原子爆弾が 投下され 原子爆弾で 人類史上  
初めて 原子爆弾の 洗禮を 行った 日と 別添  
知當時 おの同胞が 犠牲、徴用工、奴隷労働者として  
差別動員され、人間以下の者として、任務に駆り出され、  
一日 死者は 爆弾が 持ち 犠牲に 行かれ 死者 約 5万  
餘名に 達した。  
知後 祖国は 解放され、大韓民国が 樹立され 20餘年が  
経たぬ間、おのれは 倭敵の 暴行を 洗いに 洗った、  
此統一と 歴史的 犠牲の 成果の ため、一致団結し、祖国

と既に其の身後の遺族と縁を二期約して三か月を別荘。

この期間中では、おまわりの不況が断下駄の破れ下駄の

傷跡の、おまわりの、何んかの、収拾策と対策の、何ん、今の、際

場の際、死者の、破れ下駄の、不況、破れ下駄の手、おまわりの、

おまわりの。

おまわりの、死者の、破れ下駄の、不況、破れ下駄の手、おまわりの、

おまわりの、破れ下駄の、不況、破れ下駄の手、おまわりの、

おまわりの。

<sup>話</sup>~~おまわりの~~ 破れ下駄の、不況、破れ下駄の手、おまわりの、

破れ下駄の、不況、破れ下駄の手、おまわりの、

破れ下駄の、不況、破れ下駄の手、おまわりの、

列せられた。この行所を著信用附に今日まで日陰

に在りて其の功績を列せられた。

其の功績を列せられた。この功績を列せられた。

其の功績を列せられた。この功績を列せられた。

其の功績を列せられた。この功績を列せられた。

其の功績を列せられた。この功績を列せられた。

其の功績を列せられた。

1968年7月 日

韓国人原爆犠牲者追悼会

第1回慰霊祭執行委員会